

# 地球に愛を子どもに愛を

# エコキャップ新聞

活動PR誌

第7号 平成30年3月号

- 企業 CSR 特集
  - ・ 大東建託株式会社
- スクールサポーター
  - 基金の創設
- エコアクションポイント
- 子ども食堂プロジェクト
  - レポート

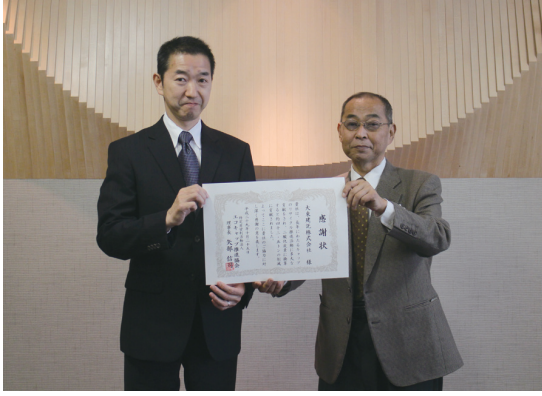
発行：NPO法人 **エコキャップ推進協会**  
 〒231-0023 横浜市中区山下町 162-1 横浜飛栄ビル 402 TEL 045-900-0294 (代) FAX 045-900-0295  
 E-mail: info@ecocap.or.jp http://www.ecocap.or.jp



大東建託は社会貢献の一環として、エコキャップ運動に参加しています。大東建託グループの特例サービス（以下、コーポレート）が中心となり、2008年度から大東建託グループ各社で廃棄されるキャップの回収を10年間継続して行っています。

その結果、累計で5,806,422個ものキャップを回収することができました。回収したキャップを焼却した場合、発生するCO2は合計で約43tとなります。このことから、大東建託グループは、約43tものCO2削減を行い、地球温暖化防止に貢献したことになります。

また、コーポレートはこの活動を



左より、大東コーポレートサービス代表取締役社長 酒井浩一、NPO法人エコキャップ推進協会 矢部信司理事長（10月25日表彰式にて）

## 企業 CSR 特集

# 大東建託株式会社

エコキャップ運動 支援について

はじめ、長期にわたる障害者雇用の促進にも努めています。

年度	集計数 (個)	CO2削減効果 (kg-CO2)
2008年度	81,240	640
2009年度	437,920	3,448
2010年度	563,200	4,463
2011年度	486,000	3,827
2012年度	484,850	5,043
2013年度	1,078,440	6,530
2014年度	820,010	6,007
2015年度	724,421	5,705
2016年度	718,960	4,869
2017年度	411,381	2,988
合計	5,806,422	43,520

【エコキャップ回収の推移】

## 2014年より、ライトダウン運動を実施



大東建託グループは、2014年より環境省が実施している「ライトダウンキャンペーン」に参加しています。ライトダウン運動とは、夏至の日（6月21日（水））とクールアース・デー（7月7日（金））の両日、20時から22時まで一斉消灯を呼びかけているものです。地球温暖化防止に協力するため、グループ施設での一斉消灯（ライトダウン）を行い、さ



「住田町・大東建託 協働の森」に看板を設置

「住田町・大東建託 協働の森」寄付金授与式を実施

大東建託グループでは、ライトダウン運動により節電した電力量をCO2量に換算し、そのCO2量を吸収するスギの本数として算出した本数分の植林管理費用を岩手県住田町へ寄付金として贈呈しました。

さらに、スギの苗木が植えられる山林の一角には、植林を記念した「住田町・大東建託 協働の森」の看板が設置されました。

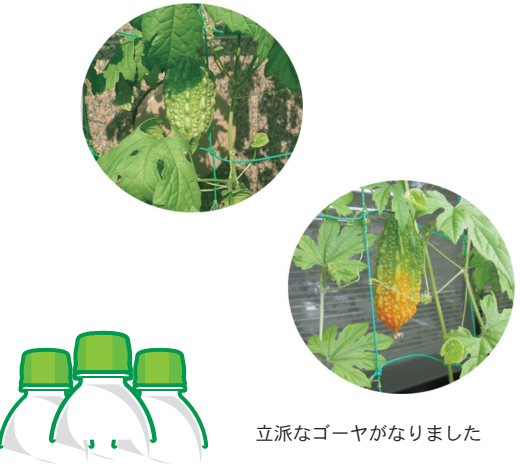
**消灯施設**  
1,011 施設

**節電量**  
11,120 kmh

**植林支援本数**  
460 本

2017年のライトダウン運動の結果

さらに節電効果量に応じた植林支援を実施しています。



立派なゴーヤがなりました



### 各支店でグリーンカーテン プロジェクトを実施

グリーンカーテンプロジェクトとはヘチマ・ゴーヤ等の植物を生育することでできる「グリーンカーテン」により室温上昇を抑え、節電・CO2削減を促進するプロジェクトです。大東建託では毎年このプロジェクトに賛同し、それぞれの支店グリーンカーテンの育成を行っています。

# こどもたちの善意を育成する為に

女子高生の発案と子どもたちの自主的活動に始まった「エコキャップ運動」は、現在、当協会に全国で16,802校。企業団体が43,500社参加しています。子どもたちが疑問に思ったことやリサイクルの矛盾から生まれたこの運動を継続し、リサイクルの促進、CO2の削減、ボランティア意識の向上などの意識をさらに成長を促していくことは我々大人の役割ではないでしょうか。

この運動が始まって以来、当協会が常に工夫を重ねていることは、キャップの送料をゼロにしているという課題への挑戦です。関東周辺の回収ボランティアのいる地域の小中学校・高校・養護学校ならば無料回収をすることはできますが、回収ボランティアのない地域や地方都市の小中学校、高校、養護学校等は、送料の負担やその送料が捻出できないために、運動が中断してしまつてことがあります。

200km以上となると回収ができないのが現状です。子どもたちの善意の灯を消さないようにすることが大切なことです。

そこで当協会は、小中学校・高等学校・養護学校のエコキャップ運動の物流を無償化し、よりこの運動の発展計画を立ち上げました。その発展計画は、「スクールサポート基金」です。当協会では、以前から賛助会員の募集をしています。この賛助会費がすべて、小中学校・高校・養護学校のキャップの送料に充てさせていただきます。

## スクールサポーター（賛助会員）の募集

小中学校・高校・養護学校等を対象にスクールサポーター（賛助会員）の募集キャンペーンを推進します。その小学校の活動発表やレポート、イベントにもご参加いただいで、子どもたちの成長を見守り、交流するのがスクールサポーター（賛助会員）の役割です。子どもたちは大人善意（サポート）とふれあう、社会とふれあうことによって多く成長してきます。

社会貢献を通じて、子どもとの関わりや成長を実感できることは、スクールサポーター個人にとっても企業にとっても喜ばしいことではないでしょうか。スクールサポーターの支援活動は、エコキャップ推進協会も全面的に支援する学校等の紹介をしていきますのでご安心ください。この資金は「スクールサポーター

基金」として運用されていきます。このスクールサポーターの基金の募集は、賛助会員募集の他、クラウドファンディングや環境省のエコアクションポイントにより調達していきます。現在、協会が進んでいるリサイクルの促進、CO2の削減にもつながってきま



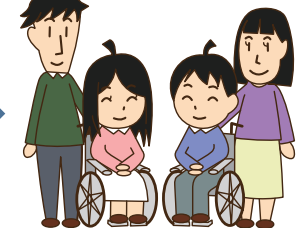
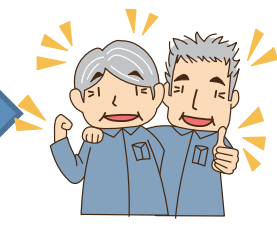
## スクールサポーター 基金の創設

地方の学校で回収ができない地域や児童や生徒数が少ない小中学校・高校・養護学校等の送料を無料にしようという事業計画です。本年度は賛助会員の募集を積極的に推進しようと考えています。この賛助会員の年会費が全国の小中学校の送料を負担して、送料をゼロにしようという事業計画です。

担当される小中学校、高校、養護学校等は、ご自分の出身校・近隣の学校、またはまったく知らない学校でも結構です。「サポートされた学校の児童・生徒からは日頃のエコキャップ活動についてのレポートや毎年、賛助会員の方々には当協会からも感謝状が贈呈されます。」これらの浄財は、スクールサポーター基金として管理運用させてい

ただきます。また、エコキャップ新聞の送付もさせていただきます。スクールスポンサー（賛助会員）の資金の利用用途は明確です。すでにロータリークラブやライオンズクラブ、社会福祉協議会などの団体様、個人の皆様にもスクールサポーターとしてご協力いただき、小中学校・高校・養護学校等に回収袋の配布させていただいています。子どもたちの発案から生まれた「エコキャップ運動」をより具現化するためにもスクールサポーター基金の設立のご協力をお願いします。

このプロジェクトにより、個人の皆様も近隣の小中学校、高校、養護学校もしくは障がい者施設等にお持ち込みいただくことが可能になります。この運動に参加いただいている個人・団体・中小企業の方々もキャップが子どもたちの活動でどのように集められて、障がい者施設で雇用創出・支援になっているかが、実感できると思います。賛助会員になっていただくことで、学校等のエコキャップ活動のご理解と障がい者施設のご理解もいただけます。



私たちがエコキャップを再生素材にします。

障がい者施設では、キャップの色分別・異物除去・シール剥がしなどの仕事になっています。

僕たち私たちが地域と連携してエコキャップを集めます！

スクールサポーター  
基金創設の考え方

エコキャップ運動のスタートは、女子高生のリサイクルに対する疑問をリサイクルできるかどうかの立証実験からはじまりました。リサイクルできることがわかったときに、全国のリサイクル業者の1社だけが参加協力してくださって、それをきっかけにNPO法人を設立し、今日に至っています。その頃からの課題の1つに、輸送する手段やその送料についてがありました。この運動が全国に広がった当初には、事務局で着払いで送られてこられて、事務所にいる理事が月額にして30〜50万円近い負担をするなど、常に送料とのたたかいでした。

全国の企業のCSRとして、送料をご負担していただける企業・団体が増えたことで、送料問題は少しは軽減しました。

当協会としても、この問題にご協力いただいたリサイクル業者の方々には、なるべく回収をお願いしたのですが、無料回収といえども人件費が掛かることや、1000t近く回収できるようになったリサイクル業者が協会から離れてビジネスとしてはじめたり、回収実績をごまかしたりする業者も出てきました。その他この運動を真似する団体も出てきていますが、この運動の真の狙いやコンセプトを理解したいと、はじめても2年程度で継続できなくなり、あとのホローを当協会が行うようなこともありましたが、「エコキャップです。」

という回収する悪徳業者もありましたが、当協会の受領書発行システムまでは真似できませんので、提供者から受領書が届かないという問い合わせからこれらの問題は発覚しています。

現在、理事長である私が専務理事であったころ、当時の斎藤環境大臣とお会いしたときに、「このエコキャップ運動のリサイクルの循環の輪を国内に定着して、ポリプロピレンやポリエチレンの価格が低迷して、儲からないから市民運動としてゴミにならないような仕組みを考えてほしい」と言われました。この課題の解決は、儲かるから運動に参加する業者は取引相場が下がることやめってしまうということです。この運動の循環を継続可能にするには、多くのキャップを集めるシステムの確立と一般の市民の方々がどこにキャップを持って行けばいいかを明確にすることなのです。

当協会は女子高生のリサイクルに対する疑問や分別することの疑問から青少年と一緒に立証実験から始まったことです。

ビジネスとして考えるリサイクル業者は、色分別・異物除去などの作業を高額な投資で機械化するなどしますが、全国で2〜5社程度しかできません。当協会はあえてアナログではありますが、全国的障がい・精神障がいの障がい者施設と連携をして、色分別、異物除去、シール剥がしなどの仕事をしていただいています。

この考え方は、障害者も高齢者も生活困窮者も共にワークシェアリングしていくというもう一つの目的があります。

今回のスクールサポーター基金の創設は、子どもたちのはじめたこの運動をスポンサーが支援することで全国の小中学校・高校・養護学校等が地域の回収拠点となり、そこにエコキャップを持っていけば更に全国に細かい毛細血管を確立することが出来る点にあります。都道府県によっては、遠距離のためにキャップが回収できない地域もたくさんあります。

当協会は佐川急便と提携して、佐川急便のインフラを活用して、どんな場所でも無料回収ができるシステムの確立を目指しています。これらのキャップは小中学校・高校・養護学校と地域が連携して、無料回収するシステムです。

継続可能なシステムの確立の為にこのたび「スクールサポーター基金」を創設します。

当協会も収益の一部をスクールサポーター基金に使用しますが、それだけでは全国をカバーすることはできません。

現在、クラウドファンディングや賛助会員の会費を「スクールサポーター基金」に入れて運用する壮大な計画です。

リサイクルの促進、CO2の削減、環境教育の実践、障がい者・高齢者の雇用創出・支援として継続的な循環型の社会の実現の為に、「スクールサポーター基金」のご協力・ご理解をお願い申し上げます。

**賛助会員会費振込先**  
みずほ銀行 横浜中央支店  
普通 1283810  
特定非営利活動法人  
エコキャップ推進協会

スクールサポーターの相関図

子どもたちが広げたエコキャップ運動を支援し、環境問題やボランティア精神を養う。



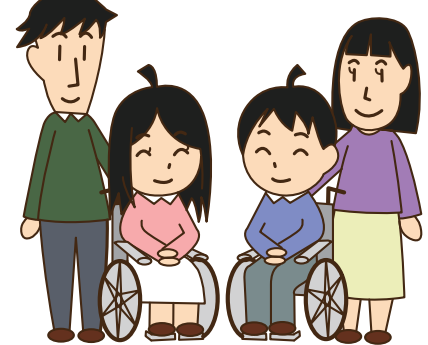
スクールサポーター(賛助会員)会費が学校の送料等の資金援助になります。(スクールサポーター基金)



子どもたちの行動を具現化する



地域と連携してキャップを集めてくれます。リサイクルの促進、CO2の削減、社会との接点を学びます。(障がい者の雇用創出・支援)の理解



エコステーション(障がい者作業所)で、キャップの異物除去、シール剥がし、色分け等の仕事をします。障がい者の雇用創出・自立支援・社会参加

※イラスト 一般社団ユニバーサルアート 障がい者B型作業所クローバー所有

エコアクションポイントの許諾決定



エコアクションポイント

CO2削減は地球規模の緊急課題です。

エコキャップ推進協会の目的の1つ「CO2の削減」があります。そのまま地球温暖化が進めば、ツバル共和国だけでなく日本の海拔0〜1mの地域の水没も現実の問題になっていきます。また、昨今の異常気象も地球温暖化と関連されていることはご存知だと思います。

30年度は、小中学校、高校、養護学校等に「CO2の削減」について「セミナー」を開催しています。当協会は、環境NPOですので、リサイクルの促進、CO2の削減については、最大の課題であり、そのリサイクルやCO2削減の中に社会に貢献できることがあると考えています。

単に寄付金を何億円しても、本当に全額その目的に使用されているか考えたときに、当協会の環境活動の近いところに無駄を無くす、世の中の役に立つことはたくさんあります。障がい者雇用創出や支援もその一環です。これから

はフードロスもCO2削減の観点から考えても取り組む課題の1つかもしれません。

エコアクションポイントに関するガイドライン

[http://www.env.go.jp/policy/eco-point/guideline/guideline\\_full.pdf](http://www.env.go.jp/policy/eco-point/guideline/guideline_full.pdf)

エコキャップ運動のCO2削減の運動がエコアクションポイント事業環境省ガイドラインに沿って申請（認可）されました。エコキャップの回収袋のデザインもこれに伴い、新デザインに変更されます。詳しくはHP、事務局にお問い合わせください。

エコアクションポイントとは、環境省が日本の課題である家庭／オフィス部門の温暖化ガス削減のために初めた、環境に役に立つ省エネ行動に経済的インセンティブを与えるためのポイント制度です。（家電エコポイント、住宅エコポイントの参考にされた環境省ポイント制度の元祖です。）

環境省が推進する、消費者等の環境配慮型（エコアクション）に特化して使用するポイントの名称です。

まず、この取り組みの第一弾として、企業・団体様ご購入いただいた佐川急便配送サービスの回収袋の購入代金の一部をスクールサポーター基金にご寄付いただくことで、回収できない地域の小中学校・高校・養護学校の送料無料代金に使用させていただきます。（ポイントの寄付のお願い）  
佐川急便配送サービスをご利用い

ただいている企業・団体様には当協会から感謝状を贈らせていただきます。ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

「その他、企業の方々が賛助会員になっていただくことで、エコキャップマークのCSRレポートや会報などの利用許諾がされる他、個人・団体・企業の賛助会員の皆様には、毎年、感謝状の発行、エコキャップ新聞の送付、各学校からの活動報告などが届きます。」

左のデザインは、佐川急便と提携しているエコアクションポイントのデザインが入った新しい配送サービスの袋のデザインです。HPでもご紹介された配送サービスはみなさまもご存知のように料金値上げの傾向にある配送料金も佐川急便様のご厚意で特別料金となっております。当協会も予想以上

の反響に配送サービス袋が品薄状態になっており、左のデザインの配送サービスの袋は4月上旬の入荷予定ですので、ご理解ください。

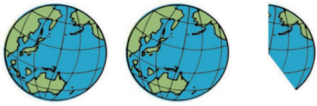
エコキャップの関連商品は、環境省のエコアクションポイントに関するガイドラインに沿って、許諾後にこのマークが印刷されていますので、HPをご参考にしてください。

お問い合わせはエコキャップ推進協会 事務局までお電話ください。

045-9000-0294



エコキャップ推進協会は、リサイクルの促進、CO2の削減活動を実施を認められて、エコアクションポイントに参入の許諾をいただくことになりました。環境省では、国民一人ひとりの環境配慮行動（エコアクション）に経済的インセンティブを付与する取組を進めるため、環境配慮型商品・サービスの購入・利用等の環境配慮行動を行った場合に、様々な商品やサービス等に交換できるポイントが貯まるエコ・アクション・ポイントプログラムを推進しています。プログラムに参加しようとする様々な立場の方々に、エコ・アクション・ポイントの趣旨や具体的な内容、参加の手順等のご理解を得、積極的な参加を促すことを目的として、「エコ・アクション・ポイントに関するガイドライン」を策定しています



世界中の人々が日本人のような暮らしをしたら地球約2.4個分の資源が必要です

日本のCO2の排出量は世界第5位。

キャップ430個を燃やすと3.15kgのCO2が発生

日本人(1人)が1年間で捨てるゴミを燃やすと109kgのCO2が発生します。

袋しばり位置

キャップを下線まで入れてください



環境省

エコキャップ回収専用袋

この袋には約6Kgのペットボトルキャップが入ります

環境省が推進する、エコなアクションに特化したポイントプログラムに、エコキャップ回収システムが登録されている

エコキャップ推進協会

ECOCAP

## 佐川配送サービス についてのお知らせ

企業・団体のCSR担当の方々にご注文いただいている佐川配送サービスが予想外の大好評をいただき、現在品薄になっていきます。環境省のエコアクションポイントのマークが入った新しい回収袋は（3月末から4月上旬に入荷する予定です。）ご注文いただいている企業・団体のみなさまには、大変ご迷惑をかけておりますが、しばらくおまちください。

新しいエコキャップ袋には、リサイクルの促進、CO2の削減の活動実績が認められて、環境省のエコアクションポイントの公式マー



クが入ります。配送サービスをお買い上げいただいているお客さまには、500個100ポイントがあたりえられます。エコキャップ再生商品や環境保護商品に交換するができません。

その他、スクールサポーター基金にポイントをご寄付いただくこともできます。

移送するには何らかのCO2が発生するのが現状ですが、佐川急便との話し合いでカーボンオフセットにも配慮した商品となっております。

おそらく将来的には、電気自動車や水素自動車輸送の主流になってきます。

広がる小中学校・高校・養護学校に配送サービスの袋・送料を無料配送することにより、その学校が

地域の拠点となります。首都圏では、高齢者が中心となって無料回収も行っていますが、それができない地方都市も多いのが現状です。

小学校や障がい者施設がその地域の方々と連携して、キャップ回収の拠点を構築していくことがこのプロジェクトの目的です。

企業・団体のCSR担当の方々にはご理解・ご協力をお願い申し上げます。

## CO2削減と地球温暖化について

産業革命以来、地球環境は悪化が進んでいます。異常気象、南極や氷河の氷が溶けて海面上昇、温暖化の影響で海流の流れが変化して、魚介類の捕獲量の減少など、経済的にも打撃を受けています。

40代以上の方々ならば、季節感がなくなってきたり、昔にはなかったゲリラ豪雨や異常積雪も子どもの頃には無かったと実感していると思います。CO2削減は国や大手企業がやるだけでなく、市民レベルでも真剣に考える時代なのです。

- \* \*
- \* \*
- \* \*

温暖化が進むと...



南太平洋にある島国ツバルは、国内で一番高い場所でも海拔5mくらいです。温暖化で海面が上がると、島の内側から海水がわき出て、町が水に沈んでしまいます。

2002.5.Masaaki Nakajima 全国地球温暖化防止活動推進センターホームページより

2100年には...

地球全体で...

気温上昇が最大 **3.8℃**  
海面上昇が最大 **82cm**

(IPCC 第5次報告書より)



1978年5月30日

2004年8月21日

1978年には大きかった氷河が、2004年には溶けて小さくなってしまっています。右側の写真の下の方に見えるのは、湖です。気温が高くなってしまったため、凍らないのです。

写真提供: 名古屋大学環境学研究所・雪氷圏変動研究室 全国地球温暖化防止活動推進センターホームページより

# 子ども食堂プロジェクトのレポート

平成30年2月18日に近畿第一ブロックの宮阪氏が主宰する「キッチンあらしやま」(子ども食堂)は1回目の開催となり、今回の開催場所は、京都市東山区三条通りの日昇館尚心亭(旅館)で「キッチンあらしやま」の子ども食堂のイベントがありました。旅館で行われる子ども食堂は日本でも初めての試みです。

「キッチンあらしやま」のバックアップには、関西シェフ同友会の方々の協力もあり、クオリティーの高い食事の提供がされて



前菜 揚げ物、沙羅蛇、炊合せ、水物、椀物、ご飯  
主催 関西シェフ同友会、  
後援 京都綿前旅館、料理旅館 鶴清、祇園畑中

います。

参加した子どもたちもいつもと違う雰囲気になり緊張気味でしたが、会食がはじまるといつものように和やかな食事の場になりました。近畿第一ブロックの宮阪理事は、「何らかの事情で食事が満足にできない子どもたちにとって、みんなで食事をする事は、肉体的な栄養もそうですが、心の栄養になります」と常日頃から言っています。私は食育という観点だけでなく、青少年の完全な心を養うことが、子ども食堂のテーマだと思えます。



## 京都子ども食堂シンポジウム

別会場では、京都市、関西シェフ同友会、関西経済同友会の方々、子ども食堂プロジェクトに関心のある企業経営者、山科子ども食堂、嵐山子ども食堂、魔法のロバ、東九条子ども食堂、みやこ・子ども食堂、梅花女子大学、もみじっこキッチン、笑人カフェ子ども食堂、ハピネス、ゆんたくホーム、一般社団法人子ども食堂、キッチンあらしやま、関西学院ボランティア、フードバンク関西、NPO法人グランドライン、吉山司法書士事務所、立山税理士事務所他、(順序不同)が一堂に集まり、子ども食堂の活動報告と問題点などが話し合われました。

シンポジウムでは、子ども食堂の在り方、運営の問題点について話し合われました。6人に1人と話されている貧困家庭の現状は、昭和25年〜40年代の日本全体が貧しかった時代と違い、一流企業の倒産やリストラ、それに伴う個々の住宅ローン等の返済不能により経済破綻、シングルマザーの収入などが背景にあり、そのしわ寄せが子どもが満足な食事をする事ができないことにあります。で済ます子どもたちが多い現実も



1年間で廃棄される食品は、1年間東京都民食事を賄う料で焼却処分の観点から考えてもCO2の削減に繋がります。

問題ですが、単に食事を食べるというよりも、親子の会話や団欒の時間を取るということが重要です。運営する側も子ども食堂に来る子どもたちが差別されないようにする配慮や仕組み作りも課題だと思えます。

これらの支援をする場合に、誰がどこで参加者の線引きをするか、貧困家庭の中には親が食事をしなくても子どもだけには・・・と経済的な無理をしているご家庭もあるのではないのでしょうか。これらの課題を解決しながら、運営する側も自己満足ではなく、支援すべき方々に心の負担を与えずに、その仕組みやシステムが今後のテーマだと思えます。

## 11月26日開催のもみじっこキッチン

11月26日(日)の「もみじっこキッチン」十二時〜十四時の報



告です。親子の出席者が多かったです。総勢30人でした。料理はハンバーグ定食にデザートでした。今回は「やちみーとシヨツプ」からの近江牛のハンバーグ用のミンチの寄付を頂きました。当協会はこのスポンサーをしました。



受付を担当する関西第一ブロック長 宮阪氏